

# 過去から現在そして未来へつなぐ防災減災の声 ～ 自然災害伝承碑～

令和2年12月16日  
国土地理院  
応用地理部 地理情報処理課  
森田 真之

## I. 自然災害伝承碑とは

(概要、きっかけ、地理院地図での表示方法)

## II. 地理院地図での公開状況

(掲載までの流れ、分布図・公開数の推移、ダウンロード提供)

## III. 自然災害伝承碑の代表例

## IV. 自然災害伝承碑の活用事例

(学校における学習教材としての活用、様々な教科での活用の可能性)

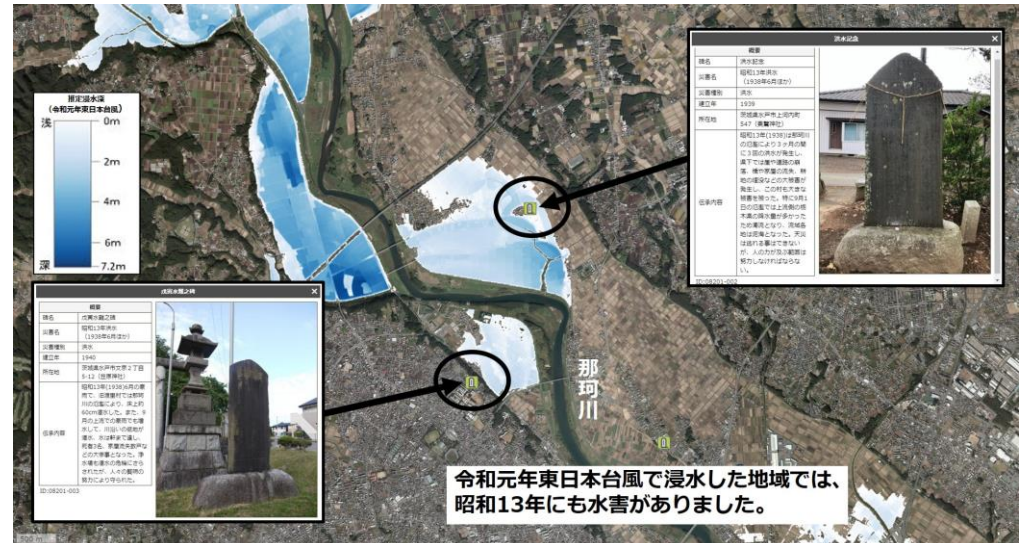
## V. まとめ

# 自然災害伝承碑とは

- ◆ 過去に発生した自然災害（洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、火山災害等）の様相や被害状況等が記載されている石碑やモニュメント
- ◆ 当時の被災場所に建てられていることが多い
- ◆ 令和元年6月からウェブ地図「地理院地図」で公開（令和元年9月から2万5千分の1地形図に掲載）
- ◆ 取組を通じて、地域住民の防災意識向上に貢献していく



「可恐 (おそるべし)」 茨城県大子町



「令和元年東日本台風」による浸水域と伝承碑の位置



# 自然災害伝承碑とは

## 整備するきっかけ：「平成30年7月豪雨」

- ◆ 広島県坂町では、過去の大水害の被災状況を伝える石碑が現地に建立されていたものの地域住民にその内容が十分に伝承されていなかった。



### 【水害碑（広島県坂町）の伝承内容】

明治40年（1907）7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。

# 自然災害伝承碑とは

## ＜地理院地図での表示イメージ＞

### ＜公開している情報＞

- ① 碑名
- ② 災害名
- ③ 災害種別  
(災害の種類)
- ④ 建立年
- ⑤ 所在地
- ⑥ 伝承内容  
(100字程度に要約)
- ⑦ 写真

さらに写真をクリックすると  
伝承内容や拡大写真が表示

アイコンをクリックすると  
碑名や災害名が表示

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦 四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総領川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 <a href="#">関連外部サイトへのリンク先</a>

ID:34309-002

水害碑

水害碑

洪水・土石流  
(1907年7月15日)

洪水・土砂災害

1910

広島県安芸郡坂町小屋浦  
四丁目

明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総領川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。  
[関連外部サイトへのリンク先](#)

自然災害伝承碑を示すアイコン

自然災害伝承碑のページはこちら↓

<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

## <自然災害伝承碑掲載までの流れ>

### ◆ 市区町村→国土地理院へ申請を行う

※地方自治体と連携し、地域の防災力向上を目指す。

①掲載希望の連絡（市区町村→国土地理院）

※事前に申請内容を相談する



②掲載申請書、申請調書を作成（市区町村）



③現地写真の準備（市区町村）



④申請書類、写真データの提出（市区町村→国土地理院）



⑤申請のあった情報を取りまとめ地理院地図を更新（月1回程度）





## 自然災害伝承碑 分布図

公開中 ●

47都道府県223市区町村703基  
(令和2年12月16日時点)





# 地理院地図での公開状況

## <ダウンロード提供の開始>

- ◆ 自然災害伝承碑の更なる認知度向上・活用促進を図るため、データのダウンロード提供（CSV・GeoJSON形式）を令和2年8月に開始

国土交通省 国土地理院 Geospatial Information Authority of Japan

地理院地図 (電子国土Web) 例: 鷗岳 / 金沢市木ノ新保町 / 35度0分0秒

自然災害伝承碑データのダウンロード

※検索 他サイトからのリンク等による直接アクセスで、「自然災害伝承碑データの提供について」ページをご覧いただけます。ご利用の際は、同意されたものと見なされます。

「自然災害伝承碑データの提供について」を見る

【ダウンロード】

- 自然災害伝承碑データ【GeoJSON】ZIP形式98.6KB (2020.11.12)
- 自然災害伝承碑データ【CSV】ZIP形式83.3KB (2020.11.12)

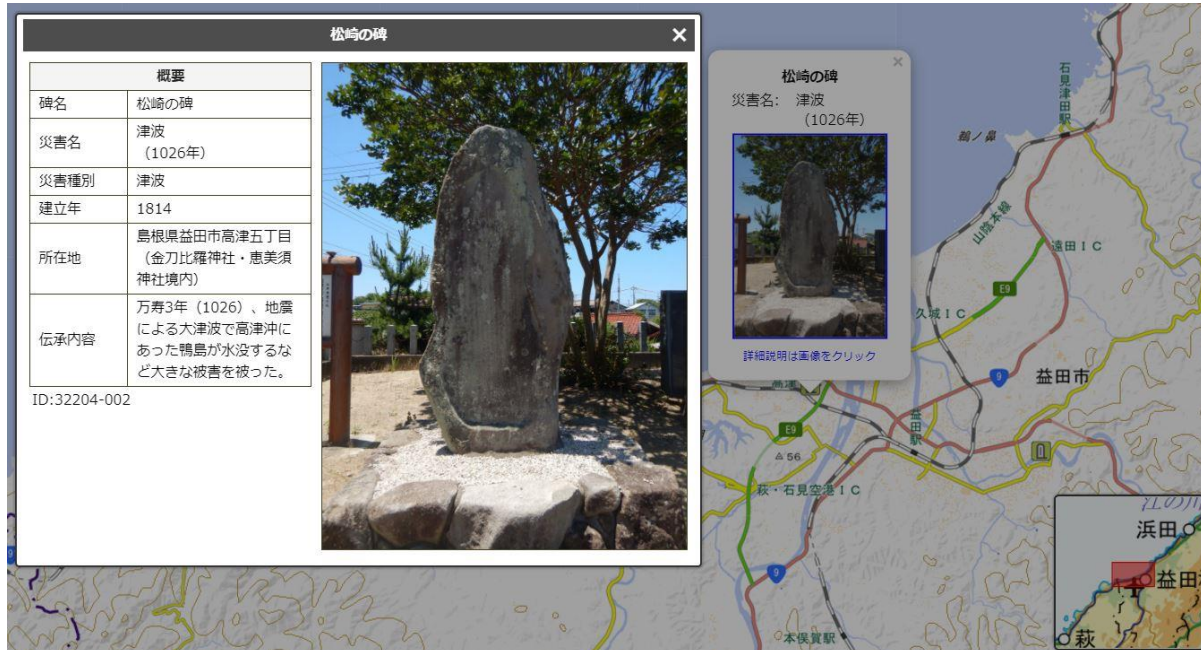
緯度	経度
緯度	経度
43.681137	142.390215
43.655015	143.164773
41.532718	140.421013
42.054945	139.44972
42.07197	139.470127

上記の内容で読み開始

自然災害伝承碑のデータダウンロードはこちら↓  
[https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi\\_download.html](https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_download.html)

# 自然災害伝承碑の代表例①

## <一番古い自然災害を伝承する碑>



[https://maps.gsi.go.jp/#15/34.686489/131.821270/&base=std&ls=std%7Cdisaster\\_lore\\_all&disp=1&lcd=disaster\\_lore\\_all&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m](https://maps.gsi.go.jp/#15/34.686489/131.821270/&base=std&ls=std%7Cdisaster_lore_all&disp=1&lcd=disaster_lore_all&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m)

### 松崎の碑 (島根県益田市)

【災害名】  
津波  
(1026年)

【建立年】  
1814年

### 【伝承内容】

万寿3年(1026)、地震による大津波で高津沖にあった鴨島が水没するなど大きな被害を被った。



## <一番新しい自然災害を伝承する碑>



[https://maps.gsi.go.jp/#15/34.629337/133.691911/&base=std&ls=std%7Cdisaster\\_lore\\_all&disp=11&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0&d=m](https://maps.gsi.go.jp/#15/34.629337/133.691911/&base=std&ls=std%7Cdisaster_lore_all&disp=11&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0&d=m)

### 平成30年7月豪雨災害の碑 (岡山県倉敷市)

【災害名】

平成30年7月豪雨 (西日本豪雨)  
(2018年7月5日~7日)

【建立年】

2019年

### 【伝承内容】

平成30年(2018)7月5日から7日に降り続いた豪雨により、小田川・末政川・高馬川・真谷川の8箇所では堤防が決壊、小田川・大武谷川の7箇所では一部損壊・損傷し、真備地区の約三割、1200ヘクタールが浸水する大洪水となった。5700棟超の住家が全壊・大規模半壊等し、60名を超える命が奪われた。



# 自然災害伝承碑の代表例③

## <複数の自然災害を伝える碑>

概要	
碑名	安政南海地震・昭和南海地震津波潮位碑
災害名	安政の地震・津波 (1854年11月5日(旧暦)) 昭和南海地震 (1946年12月21日)
災害種別	津波
建立年	1999
所在地	和歌山県田辺市新庄町
伝承内容	安政南海地震(1854)と昭和南海地震(1946)による津波災害を忘れないため、津波潮位を刻んでいる。カニのはさみをモチーフとしたデザインで、ハサミの先端が当時の津波潮位。
ID	30206-009



安政南海地震・昭和南海地震津波潮位碑

災害名: 安政の地震・津波  
(1854年11月5日(旧暦))  
昭和南海地震  
(1946年12月21日)



詳細説明は画像をクリック

### 安政南海地震・昭和南海地震 津波潮位碑 (和歌山県田辺市)

#### 【災害名】

安政の地震・津波  
(1854年11月5日(旧暦))  
昭和南海地震  
(1946年12月21日)

#### 【建立年】

1999年

#### 【伝承内容】

安政南海地震(1854)と昭和南海地震(1946)による津波災害を忘れないため、津波潮位を刻んでいる。カニのはさみをモチーフとしたデザインで、ハサミの先端が当時の津波潮位。

# 自然災害伝承碑の代表例④

## ＜火山災害を伝える碑＞

概要	
碑名	御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑
災害名	噴火 (2014年9月27日)
災害種別	火山災害
建立年	2017
所在地	長野県木曾郡王滝村
伝承内容	平成26年(2014)9月27日、御嶽山が噴火。人知を超えた自然の容赦ない猛威により登山者らが巻き込まれ、58名の尊い命が奪われ、5名の足取り途絶え生還叶わぬ、火山史上希にみる噴火災害となった。

ID:20429-001



御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑  
災害名: 噴火  
(2014年9月27日)



詳細説明は画像をクリック



### 御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑 (長野県王滝村)

【災害名】  
噴火  
(2014年9月27日)

【建立年】  
2017年

### 【伝承内容】

平成26年(2014)9月27日、御嶽山が噴火。人知を超えた自然の容赦ない猛威により登山者らが巻き込まれ、58名の尊い命が奪われ、5名の足取り途絶え生還叶わぬ、火山史上希にみる噴火災害となった。

# 自然災害伝承碑の活用事例

## <学校における学習教材としての活用>

### 鳥取県立鳥取西高等学校

なぜ

「地形を知り 災害を知り 災害に備える」  
ことが大切なのか？

鳥取県立鳥取西高等学校 中村秀司

2020年11月6日

③自然災害伝承碑を探そう 探し方↓



なぜ、伝承碑がここにあるのか？

なぜ、この地に伝承碑があるのだろうか？

④新旧地形図で調べよう  
調べ方：[今昔マップ](#)



鳥取平野の災害危険性  
⑤どんな災害が予想されているか？  
調べ方：[重ねるハザードマップ](#)



「なぜ、この地に伝承碑があるのか」

ポイント

女伝承碑は砂丘と低地の間に位置している  
☆旧築堤が屈曲する位置にある  
☆築堤は砂丘閉塞によって起こっている  
☆砂丘閉塞により千代川は海に流出しにくい  
☆千代川は平谷川と呼ばれ流域面積が広い  
☆流域の降水量が多ければ影響は甚大  
☆城下町の被害が、この地まで遡及された



災害現場



◆鳥取西高等学校では地理歴史（地理B）の授業の中で地理院地図に掲載されている**自然災害伝承碑**を学習教材として活用した。

◆「なぜ対象地域に自然災害伝承碑があるのか」を調べることで、対象地域の地形の特徴、土地利用の変化、過去・近年に日本及び対象地域で発生した自然災害、ハザードマップを使用した災害予測等を学び、マイ・タイムライン（住民ひとりひとりの防災行動計画）を作成することで、**生徒の防災意識を高めることが授業の狙い。**



# 自然災害伝承碑の活用事例

## <様々な教科での活用の可能性>



阪神淡路大震災を伝える自然災害伝承碑  
に刻まれている言葉

これは いつかあったこと。  
これは いつかあること。

だからすぐ記憶すること。  
だから繰り返し記憶すること。

このさき  
わたしたちが生きのびるために。

**国語や道徳の教材でも活用されうる！**

- ◆ 自然災害伝承碑に記された碑文等の情報は、過去の災害により自らの身に起きた出来事を現在の我々に伝えんとする先人たちの貴重なメッセージである。
- ◆ 本取組は、そのメッセージを電子地図や地図記号の形とすることで、風化させることなく過去の教訓を後世に分かりやすく伝え続けるものである。
- ◆ 防災教育等での教材としての活用など、住民の防災意識、ひいては災害時における自助力向上に寄与できるものである。
- ◆ 国土地理院では、人々の記憶や生活から埋もれている自然災害伝承碑を掘り起こすため、文献調査や現地調査を行い、碑の存在を明らかにし、自治体への登録の働きかけを進めていきたい。

自然災害伝承碑を地理院地図で見る→

